

1 情勢報告

小ナス産地交流会が開催されました。



ほ場で意見を交換する
農家と関係機関

8月27日、高知県下の小ナス産地の関係者が、JA津野山管内に集まり、産地交流会を行いました。

まず、「まとまりのある産地作り育成事業」の篤農家とIPM実践農家のほ場を見学しました。その後、営農センター「輝」で、園芸連から出荷・販売方針と取り組みや〈エコシステム栽培〉の説明がありました。促成産地からは、天敵導入は実証段階で、それ以外のIPM技術も導入して〈エコシステム栽培〉に取り組むことが報告されました。津野山からは、8月から値決め販売に着手したこと、台木や天敵、微生物殺虫剤を駆使したIPM技術に取り組んでいることなどが報告されました。本農業振興センターからは、IPMの現地事例や状況などについて報告しました。

高知県産小ナスの周年出荷を支える促成、雨よけ、露地産地の生産者同士が連携を強め、技術向上について意見を交わすことが出来ました。本農業振興センターは、今後も小ナス産地の振興にむけて支援していきます。

大野見米エコ研究会がブランド米「土佐天空の郷」を視察研修しました。



中土佐町大野見産米エコ研究会（農家・役場・農協・農業振興センター）は、現在、取り組んでいる大野見米のブランド化に向けた販売体制づくりを検討しています。

そこで、本農業振興センターは先進地研修を計画し、9月1日に実施しました。大野見米エコ研究会会員の約半数13名が、本山町農業公社が取り組んでいるブランド米「土佐天空の郷」研修へ参加しました。

ここでは、米の一元管理販売がなされており、運転資金の調達方法・高品質米の取り組みや米の流れ・販路の開拓方法等の説明をしてもらい、今後の販売体制づくりの参考となりました。

また、棚田での取り組みに出席者一堂は元気を頂きました。

本農業振興センターは、引き続きブランド米販売体制づくり等の支援を行ないます。



1 情勢報告

県域ミョウガ品目別研究会を開催しました。



8月25日、県域のミョウガ品目別研究会が、JA土佐くろしお浦ノ内支所で開催されました。連日の猛暑にも関わらず、生産者や関係機関の担当者など40名の出席がありました。

研究会は、現地ほ場見学後、JAの会議室で勉強会を行いました。本農業振興センターからは、「給液管理」についての現地実証結果（中間）を報告しました。農業技術センターからは、「排液処理装置」の現地実証結果と「花蕾の腐敗に関する研究」の途中経過を報告してもらいました。また、園芸連からは、販売概況と販売上の課題が報告されました。

各産地からは、「灌水管理を見直しており、テンションメータを導入している」、「花蕾がミイラ化する原因不明の症状が発生している」などの取り組みや課題等についての発言があり、産地間の情報を交換しました。

本農業振興センターは今後も研究会活動を支援していきます。

JA津野山研修農園「営農みらい塾」運営協議会が開催されました。



9月14日、JA津野山研修農園「営農みらい塾」の運営協議会が開催されました。

同塾は、関係機関等で構成された運営協議会の意見を受けながら、高知県新規就農研修支援事業も活用し、新規就農者の育成・確保に取り組んでいます。今回は、研修状況の報告や研修生の就農先について意見交換が行われ、必要な支援について話し合いました。

今後も、本農業振興センターは運営協議会に参画し、現在の研修生1名の今後の就農計画について、就農相談や情報提供を行っていきます。